愛知教育大学教科教育センター研究報告
第7号. PP. 221～231 (Mar;1983)

運動の特性の違いによる指導と学習の活動パターンの相違に関する研究
―個人的スポーツと集団的スポーツについて―

愛知教育大学体育教室 永 田 靖 章
(昭和57年12月27日受理)

A Study on the Differences of Teaching and Learning Pattern among Movement Forms in Physical Education Class
—From the Relation between Individual Sport and Team Sport—

Yasuaki NAGATA
(Department of Physical Education,
Aichi University of Education)

ABSTRACT

The purpose of this study is to clarify the difference of behavior traits of a teacher and students among various movement forms in physical education class.

The systematic observation was adapted as the main method of this reseach. The observations were conducted in order to analyse the teaching and learning pattern of physical education class in a midlle school. The movement forms surveyed in the research were "Track-and-Field" and "Volley-Ball", and the investigation was covered the period from April to October, 1978.

The main results obtained were as follows:

1) The main behavior of the teaching process were "Observation", "Instruction", and "Administration". And then, the traits of the individual sport were a lot of "Observation" and "Suggestion", and the trait of the team sport was a lot of "Instruction".

2) The main behavior of the learning process were "Exercise", "Game or Playing", "Recording or Measurement", "Warming-Up or Cooling-Down", "Hearing or Responding", "Administration" and "Waiting or Gatherring". And then, the traits of the individual sport were a lot of "Recording or Measurement", "Game or Playing", "Administration" and "Hearing or Responding".

3) The behavior patterns of teaching and learning process had five types as follows; (1) Increase-Type, (2) Decrease-Type, (3) Parallel-Type, (4) Convex-Type and (5) Concave-Type. But, these behavior patterns had the common types and non-common types for the different movement forms in physical education class.

4) The main traits of the individual sport in teaching and leaning process was the

individual behavior.

5) The main traits of the team sport in the teaching and learning process was the small groups behavior.

Ⅰ．緒　　言

体育の授業は，学習者を運動の特性にふれさせ，教育や体育の目標の目指す方向に導いたり，運動に対する学習者の主体的条件を変容させようとするものである。[1]

そのためには，体育の授業における指導者と学習者にみられる諸活動を，授業に必要であると考えられる活動に分類し，単元全体の授業過程にみられる各活動の活動パターンと，体育の授業過程における基本的な活動パターンとの関係から検討される必要があると考える。授業研究では，この授業過程の中の各活動の活動パターンに注目することが重要であると考えて，本研究では，ここに視点をあてたものである。

Ⅱ．問題の設定と研究のねらい

授業研究においては，どの授業にも必要な条件や共通の過程が，どのようなものであるのかを明らかにし，[2]その上で，授業のねらいや運動の特性に応じたよりよい授業を目指す工夫が必要であると考える。

この考え方に基づいた基礎研究の結果により，[3][4]図1のような1つの単元の授業における指導者と学習者にみられる活動パターンの類型化と，図2のような指導と学習の過程の望ましいあり方とし

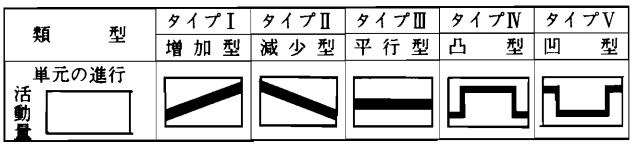

図1　体育の指導―学習過程における活動パターンの類型

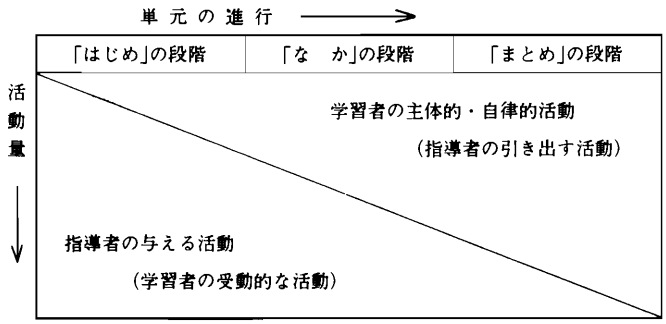

図2　体育の指導―学習過程における基本的な活動パターン

ての基本的な活動パターンの模式図化をしてきた。[5]

すなわち，体育の授業における指導と学習の過程における活動パターンには，①単元が進行するに伴って活動量の増加する増加型，②単元が進行するに伴って活動量の減少する減少型，③単元が進行しても活動量に変化の少ない平行型，④単元の「なか」の段階で活動量が増加する凸型，⑤単元の「なか」の段階で活動量が減少する凹型の5つのタイプがあるということである。また，指導と学習の過程における基本的な活動パターンは，単元の展開当初は学習者の学習の見通しが充分ではないので，指導者の与える活動や学習者の受動的な活動が多く，単元の進行に伴って学習者の見通しが明確になってくるために，学習者の主体的・自律的活動が多くなるということである。

さらに，この研究を発展させるために，学習者を運動の特性にふれさせ，主体性や自律性を育成するためには，運動の特性に応じた指導や学習の

活動パターンがどのように異っているのか，また，共通する活動パターンはどのようなものであるのかを明らかにした。[6] すなわち，これは，体操領域・スポーツ領域・ダンス領域の3領域に大別して，それを運動の特性としておさえて，活動パターンの特徴を明らかにしたものである。

そこで，本研究では，スポーツ領域に視点をあてて，個人的スポーツと集団的スポーツにみられる指導と学習の活動パターンの相違を明らかにすることをねらいとするものである。つまり，体育の授業が展開されていく過程を，一単位時間を完結した授業としてとらえるのではなく，一つのまとまりとしての単元を単位としてとらえた中での「はじめ→なか→まとめ」という一連の段階における活動パターンを問題にしようとするものである。

Ⅲ．研究の方法

1．研究の対象

同一指導者から小集団指導を受けている中学校2年生女子の1体育学級におけるスポーツ領域の次の単元を対象とした。

- 陸上競技単元（6単位時間）→個人的スポーツ
- バレーボール単元（12単位時間）→集団的スポーツ

2．調査の期日（授業観察期日）

(1) 陸上競技単元（個人的スポーツ）
昭和53年10月14日～10月28日

(2) バレーボール単元（集団的スポーツ）
昭和53年4月25日～6月1日

3．研究の方法及び手続き

(1) 授業観察は，デジタル式行動記録分析装置[7]と宇土の授業分析票[8]を参考に作成した活動別授業観察記録票とを併用し，対象とした単元の全授業を観察して，その過程を各活動別に記録した。

(2) 指導者と学習者の各活動を表1と表2のように分類し，それを量的に時間（継続的活動[9]）と頻度（単発的活動[10]）でとらえ，それぞれの各活動の量的な増減や変化について分析・検討をした。

表1　指導者の活動の分類

1	記録・測定
2	観察
3	参加・補助
4	暗示・発問
5	教授・説明・示範
6	指示・誘導・管理

表2　学習者の活動の分類

①	記録・測定
②	計画・資料研究
③	話し合い・補助・教え合い
④	ゲーム・プレイ・発表
⑤	技能練習
⑥	準備・整理・補強運動
⑦	話を聞く・質疑応答
⑧	待機・移動・集合・整列
⑨	用具の管理・準備・後始末

(3) 各活動の量的なおさえは，単元における「はじめ→なか→まとめ」の段階でとらえた。

(4) 指導者の活動は，学級全体・グループ・個人のいずれを対象にした活動であるのか，また，学習者の活動は，そのいずれを単位とした活動であるのかについての区別をして分析・検討をした。

Ⅳ．研究の結果と考察

1．運動の特性による各単元の活動量の特徴

指導者と学習者の単元全体における活動量を運動の特性ごとにみたものが，表3と表4である。

指導者の単元における中心的活動[11]は，継続的活動では，運動の特性にかかわりなく多いのは，観察と教授・説明・示範である。観察の活動は，個人的スポーツの方が多く，教授・説明・示範の活動は，集団的スポーツの方が活動量が多いといえる。単発的活動では，教授・説明・示範と指示・誘導・管理が運動の特性にかかわりなく多く，さらに，個人的スポーツの暗示・発問が多いといえる。

学習者の単元における中心的活動は，継続的活動では，技能練習，ゲーム・プレイ・発表，記録

表3　運動特性による指導者の単元における活動量の特徴

種類	継続的活動				単発的活動			
運動特性	個人スポーツ		集団スポーツ		個人スポーツ		集団スポーツ	
活動　分・回,%	分	%	分	%	回	%	回	%
記録・測定			8.7	1.8			6	1.4
観察	203.1	79.5	290.0	58.4	8	1.5	20	4.8
参加・補助	5.3	2.1	24.9	5.0	27	5.0	15	3.6
暗示・発問			11.7	2.4	68	12.7	28	6.7
教授・説明・示範	24.4	9.6	122.2	24.5	226	42.3	156	37.6
指示・誘導・管理	22.4	8.8	39.2	7.9	206	38.5	191	45.9
総授業時間(分)・総頻度(回)	255.2		496.7		535		416	

表4　運動特性による学習者の単元における活動量の特徴

種類	継続的活動				単発的活動			
運動特性	個人スポーツ		集団スポーツ		個人スポーツ		集団スポーツ	
活動　分・回,%	分	%	分	%	回	%	回	%
記録・測定	95.8	32.4	64.8	10.9			1	0.3
計画・資料研究								
話し合い・教え合い・補助			37.2	6.3	24	8.9	14	3.8
ゲーム・プレイ・発表	95.8	32.4	110.6	18.6	2	0.7	14	3.8
技能練習	134.3	45.4	261.2	44.0	2	0.7		
準備・整理・補強運動	43.8	14.8	96.9	16.3	6	2.2		
話を聞く・質疑応答	31.2	10.5	115.1	19.4	182	67.7	194	52.4
待機・移動・集合・整列	25.8	8.7	46.7	7.9	35	13.0	146	39.5
用具の管理・準備・後始末	49.3	16.7	69.2	11.6	18	6.7	1	0.3
総授業時間(分)・総頻度(回)	295.7		594.3		269		370	

・測定，準備・整理・補強運動，話を聞く・質疑応答，用具の管理・準備・後始末などである。この中で，個人的スポーツの方が集団的スポーツよりも活動量が多いのは，記録・測定，ゲーム・プレイ・発表，用具の管理・準備・後始末の活動である。単発的活動では，話を聞く・質疑応答と待機・移動・集合・整列が運動の特性にかかわりなく多く，さらに，話を聞く・質疑応答の活動は，集団的スポーツよりも個人的スポーツの方が多いといえる。

その他の活動については，活動量という点からみれば，周辺的活動[12]であるといえる。

これらのことから，個人的スポーツと集団的スポーツという運動の特性によって，指導者と学習者の中心的活動は，活動量に多少の差はみられても，ほとんど同じであるといえよう。

2．運動の特性による各単元での指導する対象と学習する単位の活動量の特徴

指導者の指導する対象が，学級全体・グループ・個人のいずれであるのか，また，学習者の学習する単位が，学級全体・グループ・個人のいずれであるのか，また，その対象や単位が，どのような活動であるのかについて運動の特性ごとにみたものが，表5と表6である。

指導者の継続的活動では，個人的スポーツは，個人を対象とする活動を中心に学級全体やグループを対象にした活動が多い。集団的スポーツは，グループを対象にした活動を中心に学級全体を対象にした活動が多く，個人を対象にした活動は極くわずかである。これは，運動の特性による顕著

表５　運動特性による指導者の単元における働きかける対象

活動	種類 / 運動特性 / 分・回,%	継続的活動 個人スポーツ 分	継続的活動 個人スポーツ %	継続的活動 集団スポーツ 分	継続的活動 集団スポーツ %	単発的活動 個人スポーツ 回	単発的活動 個人スポーツ %	単発的活動 集団スポーツ 回	単発的活動 集団スポーツ %
記録・測定	学級	学							
	グループ			3.0	0.6			6	1.4
	個人			5.7	1.1				
観察	学級	57.7	22.4	52.3	10.5	8	1.5	12	2.9
	グループ	33.2	12.9	232.0	46.7			8	1.9
	個人	112.2	43.6	5.7	1.1				
参加・補助	学級					1	0.2		
	グループ	1.5	0.6	23.9	4.8	21	3.9	5	1.2
	個人	3.9	1.5	1.0	0.2	5	0.9	10	2.4
暗示・発問	学級			6.4	1.3	16	3.0	17	4.1
	グループ			5.3	1.1	28	5.2	9	2.2
	個人					24	4.5	2	0.5
教授・説明示範	学級	19.6	7.6	79.3	16.0	42	7.9	19	4.6
	グループ	4.8	1.9	41.7	8.4	103	19.3	60	14.4
	個人			1.2	0.2	81	15.1	77	18.5
指示・誘導管理	学級	11.9	4.6	21.0	4.2	74	13.8	97	23.3
	グループ	9.3	3.6	11.8	2.4	108	20.2	35	8.4
	個人	1.2	0.5	6.4	1.3	24	4.5	59	14.2
全体	学級	89.2	34.9	159.0	32.0	141	26.4	145	34.9
	グループ	48.8	19.1	317.7	64.0	260	48.6	123	29.6
	個人	117.3	45.9	20.0	4.0	134	25.0	148	35.6

な特徴のあらわれであるといえる。特に，これは，観察活動においてその特徴があるといえる。単発的活動では，個人的スポーツは，グループを対象にした活動を中心に学級全体や個人を対象にした活動もみられるが，集団的スポーツは，個人・学級全体・グループのすべてを対象にした活動であるといえる。

学習者の継続的活動では，個人的スポーツは，個人を単位とした活動を中心にグループや学級全体の活動が多い。集団的スポーツは，グループを単位とした活動を中心に学級全体を単位とした活動も多くみられる。特に，これは，ゲーム・プレイ・発表の活動においてその特徴があるといえる。単発的活動では，個人的スポーツは，個人を単位とした活動を中心にグループや学級全体のすべてを単位とした活動が多くみられる。集団的スポーツは，グループを中心に学級全体や個人を単位としたすべての活動が多いといえる。学習者の活動も指導者の活動と同じように，運動の特性を顕著にあらわしているといえる。

これらのことから，体育の授業は，学級全体・グループ・個人のそれぞれを対象にしたり，単位とした活動が必要であるが，運動の特性に応じた活動が必要であるといえる。

３．運動の特性による各単元の指導段階や学習段階にみられる活動量の変化

単元の「はじめ」・「なか」・「まとめ」という指導と学習の段階における指導者と学習者の各活動量とその増減や変化についてみたものが，表７と表８である。

表７も表８もともに，すべての段階にみられる活動と特定の段階にしかみられない活動とがある。

表6　運動特性による学習者の単元における活動する単位

活動	種類 / 運動特性 / 単位 分・回, %	継続的活動 個人スポーツ 分	継続的活動 個人スポーツ %	継続的活動 集団スポーツ 分	継続的活動 集団スポーツ %	単発的活動 個人スポーツ 回	単発的活動 個人スポーツ %	単発的活動 集団スポーツ 回	単発的活動 集団スポーツ %
記録・測定	学級			3.2	0.5				
	グループ			50.9	8.6			1	0.3
	個人	95.8	32.4	10.7	1.8				
計画・資料研究	学級								
	グループ								
	個人								
話し合い・教え合い・補助	学級							3	0.8
	グループ			37.2	6.3			9	2.4
	個人					24	8.9	2	0.5
ゲーム・プレイ発表	学級							1	0.3
	グループ			99.1	16.7			1	0.3
	個人	95.8	32.4	11.6	1.9	2	0.7	12	3.2
技能練習	学級	13.7	4.6	43.5	7.3				
	グループ	111.8	37.8	217.8	36.7				
	個人	8.8	3.0			2	0.7		
準備・整理・補強運動	学級	26.3	8.9	38.2	6.4	6	2.2		
	グループ	9.5	3.2	58.7	9.9				
	個人	8.0	2.7						
話を聞く・質疑応答	学級	22.4	7.6	78.2	13.2	14	5.2	31	8.4
	グループ	6.1	2.1	32.7	5.5	74	27.5	79	21.4
	個人	2.7	0.9	4.2	0.7	94	34.9	84	22.7
待機・移動・集合・整列	学級	10.6	3.6	22.6	3.8	34	12.6	87	23.5
	グループ	6.3	2.1	24.1	4.0	1	0.4	51	13.8
	個人	8.9	3.0					8	2.2
用具の管理・準備・後始末	学級	16.7	5.7	5.7	1.0	1	0.4		
	グループ	13.6	4.6	49.9	8.4	4	1.5	1	0.3
	個人	18.9	6.4	13.6	2.3	13	4.8		
全体	学級	89.7	30.3	191.4	32.2	55	20.4	122	33.0
	グループ	147.3	49.8	570.4	96.0	79	29.4	142	38.4
	個人	238.9	80.8	40.1	6.7	135	50.2	106	28.6

これは，運動の特性によって違いはみられるが，図1と同じ5つのタイプあるいはパターンに類型化することができる。

指導者のどの運動の特性の授業にも共通してみられる活動パターンは，継続的活動では，観察が単元の「なか」の段階で増加する凸型を示し，教授・説明・示範が単元の進行に伴って減少する減少型を示している。単発的活動では，観察が単元の「なか」の段階で減少する凹型を示している。その他の活動は，運動の特性によって異っているが，それが運動の特性によるものであるかどうかは，さらに今後の検討を必要とするものである。

学習者のどの運動の特性の授業にも共通してみられる活動パターンは，継続的活動では，ゲーム

表７　運動特性による指導段階にみられる活動量の変化

活動	段階	継続的活動 個人スポーツ 分	継続的活動 個人スポーツ %	継続的活動 集団スポーツ 分	継続的活動 集団スポーツ %	単発的活動 個人スポーツ 回	単発的活動 個人スポーツ %	単発的活動 集団スポーツ 回	単発的活動 集団スポーツ %
記録・測定	はじめ								
	なか			3.0	0.7			6	1.7
	まとめ			5.7	11.6				
	(タイプ)			増加					凸
観察	はじめ	21.2	59.9	14.7	38.3	3	4.8	6	12.0
	なか	141.7	83.6	246.0	60.1	3	0.7	13	3.6
	まとめ	40.2	79.8	29.3	59.6	2	3.3	1	6.7
	(タイプ)		凸		凸		凹		凹
参加・補助	はじめ			2.2	5.7			10	20.0
	なか	3.8	2.2	22.7	5.5	24	5.8	5	1.4
	まとめ	1.5	3.0			3	5.0		
	(タイプ)		増加		減少		凸		減少
暗示・発問	はじめ					10	16.1	5	10.0
	なか			10.7	2.6	50	12.1	21	5.8
	まとめ			1.0	2.0	8	13.3	2	6.7
	(タイプ)				凸		凹		凸
教授・説明・示範	はじめ	4.9	13.8	14.7	38.3	30	48.4	17	34.0
	なか	16.3	9.6	96.8	23.7	170	41.6	137	38.0
	まとめ	3.2	6.3	10.7	21.7	26	43.3	2	13.3
	(タイプ)		減少		減少		凹		凸
指示・誘導・管理	はじめ	9.3	26.3	6.8	17.7	19	30.6	12	24.0
	なか	7.6	4.5	29.9	7.3	166	40.2	179	50.0
	まとめ	5.5	10.9	2.5	5.1	21	35.0	10	66.7
	(タイプ)		凹		減少		凸		増加
全体	はじめ	35.4		38.4		62		50	
	なか	169.4		409.1		413		361	
	まとめ	50.4		49.2		60		15	

・プレイ・発表が単元の進行に伴って増加する増加型を示し，技能練習が「なか」の段階で増加する凸型を示している。単発的活動では，話を聞く・質疑応答が単元の「なか」の段階で増加する凸型を示している。その他の活動は，運動の特性による活動パターンであると考えられる。

４．運動の特性による各単元での指導する対象と学習する単位の活動パターン

指導と学習の段階における各活動パターンを，さらに，指導者の場合には，学級全体・グループ・個人のそれぞれの指導する対象の活動がどのような活動パターンであるのか，また，学習者の場合には，学級全体・グループ・個人のそれぞれの学習する単位の活動がどのような活動パターンであるのかについてまとめたのが，表９と表10である。

指導者のどの運動の特性にも共通してみられる活動パターンは，継続的活動では，学級全体を対象とした教授・説明・示範の減少型であり，単発的活動では，グループを対象とした暗示・発問の

表8　運動特性による学習段階にみられる活動量の変化

活動	種類 / 運動特性 / 学習段階 / 分・回,%	継続的活動 個人スポーツ 分	継続的活動 個人スポーツ %	継続的活動 集団スポーツ 分	継続的活動 集団スポーツ %	単発的活動 個人スポーツ 回	単発的活動 個人スポーツ %	単発的活動 集団スポーツ 回	単発的活動 集団スポーツ %
記録・測定	はじめ								
	なか	54.2	28.6	59.2	12.0			1	0.3
	まとめ	41.7	70.1	5.7	10.5				
	(タイプ)	増加		凸				平行	
計画・資料研究	はじめ								
	なか								
	まとめ								
	(タイプ)								
話し合い・教え合い・補助	はじめ					3	11.5	3	7.7
	なか			31.3	6.3	3	1.6	11	3.5
	まとめ			6.0	11.1	18	31.6		
	(タイプ)			増加		凹		減少	
ゲーム・プレイ発表	はじめ			6.5	13.8	2	7.7	3	7.7
	なか	54.2	28.6	82.3	16.7			9	2.9
	まとめ	41.7	70.1	22.0	40.6			2	10.0
	(タイプ)	増加		増加		減少		凹	
技能練習	はじめ	20.8	44.4	14.3	30.4	2	7.7		
	なか	104.7	55.3	232.0	47.1				
	まとめ	8.8	14.9	13.0	27.7				
	(タイプ)	凸		凸		減少			
準備・整理・補強運動	はじめ	5.7	12.2	11.7	24.8	1	3.8		
	なか	34.3	18.1	77.9	15.8	4	2.2		
	まとめ	3.8	6.4	7.4	13.7	1	1.8		
	(タイプ)	凸		減少		減少			
話を聞く・質疑応答	はじめ	9.3	19.9	15.8	33.5	9	34.6	20	51.3
	なか	20.9	11.0	88.7	18.0	148	79.6	172	55.3
	まとめ	1.0	1.7	10.7	19.7	25	43.9	2	10.0
	(タイプ)	減少		凹		凸		凸	
待機・移動・集合・整列	はじめ	6.2	13.3	2.7	5.7	6	23.1	13	33.3
	なか	18.5	9.8	43.9	8.9	24	12.9	117	37.6
	まとめ	1.1	1.8	5.7	10.5	5	8.8	16	80.0
	(タイプ)	減少		増加		減少		増加	
用具の管理・準備・後始末	はじめ	6.5	13.8	5.2	11.0	3	11.5		
	なか	35.1	18.5	58.3	11.8	7	3.8	1	0.3
	まとめ	7.7	13.0	5.7	10.5	8	14.0		
	(タイプ)	凸		平行		凹		平行	
全体	はじめ	46.8		47.1		26		39	
	なか	189.4		493.0		186		311	
	まとめ	59.5		54.2		57		20	

表9　運動特性による指導段階における指導者の働きかける対象と活動パターン

種類 / 運動特性 / 活動 / 対象	継続的活動						単発的活動					
	個人スポーツ			集団スポーツ			個人スポーツ			集団スポーツ		
	学級	グループ	個人	学級	グループ	個人	学級	グループ	個人	学級	グループ	個人
記録・測定					平行	増加				平行	凸	
観察	減少	減少	増加	凸	凸		凹			減少	増加	
参加・補助		増加	凸		凸	平行	平行	増加	増加		減少	減少
暗示・発問				凸	増加		減少	凸	増加	凹	凸	
教授・説明・示範	減少	凸		減少	増加	平行	凹	凸	増加	凸	減少	凸
指示・誘導・管理	増加	減少	平行	減少	増加	凸	減少	凸	増加	増加	減少	凸

表10　運動特性による学習段階における学習者の活動する単位と活動パターン

種類 / 運動特性 / 活動 / 単位	継続的活動						単発的活動					
	個人スポーツ			集団スポーツ			個人スポーツ			集団スポーツ		
	学級	グループ	個人	学級	グループ	個人	学級	グループ	個人	学級	グループ	個人
記録・測定			増加	平行	凸	増加					平行	
計画・資料研究												
話し合い・教え合い・補助					増加				凸	減少	減少	平行
ゲーム・プレイ・発表			増加		増加	減少			減少	平行	平行	凹
技能練習	減少	凸	増加	凸	凸			減少				
準備・整理・補強運動	減少	凸	凸	減少	増加		減少					
話を聞く・質疑応答	減少	凸	平行	減少	増加	平行	減少	凸	増加	減少	減少	凸
待機・移動・集合・整列	凹	凸	凸	凹	凸		減少	平行		凹	凹	減少
用具の管理・準備・後始末	増加	凸	減少	増加	凸	減少	平行	凸	凹		平行	

凸型である。その他の活動については，運動の特性によって異っているが，これが運動の特性によるものであるのかどうかについては，さらに今後の検討が必要である。

学習者のどの運動の特性にも共通してみられる活動パターンは，継続的活動では，学級全体を単位とした活動は，用具の管理・準備・後始末の増加型，準備・整理・補強運動と話を聞く・質疑応答の減少型，待機・移動・集合・整列の凹型である。グループを単位とした活動は，技能練習，待機・移動・集合・整列，用具の管理・準備・後始末の凸型である。個人を単位とした活動は，記録・測定の増加型，用具の管理・準備・後始末の減少型，話を聞く・質疑応答の平行型というように，多くの活動で共通している。単発的活動では，学級全体を単位とした活動の話を聞く・質疑応答の減少型だけである。その他の活動については，運動の特性による特徴を示しているものがかなり見受けられる。

V．研究のまとめ

個人的スポーツと集団的スポーツというスポーツ領域の運動の特性による単元の違いによって指導と学習の活動パターンが，どのように共通し，どのように異っているのかを検討してきた。その結果をまとめると，次のとおりである。

1．指導者の活動パターンについては：

(1)　活動量からみた中心的活動は，観察と教授・説明・示範及び指示・誘導・管理が共通しており，さらに，個人的スポーツは，観察と暗示・発問が多く，集団的スポーツは，教授・説明・示範が多い。その他の活動は，周辺的活動であるといえる。

(2)　学習者に働きかける対象は，個人的スポー

ツは個人を中心に学級全体やグループへの活動も多く，集団的スポーツはグループを中心に学級全体への活動が多い。

(3) 指導段階でみられる活動量の変化は，観察が凸型，教授・説明・示範が減少型で共通しており，個人的スポーツは参加・補助が増加型，指示・誘導・管理が凹型であり，集団的スポーツは記録・測定が増加型，参加・補助が減少型，暗示・発問が凸型，指示・誘導・管理が減少型である。これらは，継続的活動が中心であるが，単発的活動は反比例的な活動パターンのタイプを示している。

(4) 学習者に働きかける対象にみられる活動パターンは，継続的活動の学級全体を対象とした教授・説明・示範の減少型と単発的活動のグループを対象とした暗示・発問の凸型が共通している。その他の活動については，運動の特性によって活動パターンが異っている。

2．学習者の活動パターンについては：

(1) 活動量からみた中心的活動は，技能練習，ゲーム・プレイ・発表，記録・測定，準備・整理・補強運動，話を聞く・質疑応答，用具の管理・準備・後始末，待機・移動・集合・整列が共通している。これらの中で，個人的スポーツの方が活動量が多いのは，記録・測定，ゲーム・プレイ・発表，用具の管理・準備・後始末，話を聞く・質疑応答の活動である。

(2) 学習者の活動する単位は，個人的スポーツでは個人を単位とした活動を中心に学級全体やグループでの活動がみられ，集団的スポーツではグループを単位とした活動を中心に学級全体での活動もみられる。これは，運動の特性を顕著にあらわしたものといえる。

(3) 学習段階でみられる活動量の変化は，ゲーム・プレイ・発表が増加型，技能練習が凸型，話を聞く・質疑応答が凸型で共通している。個人的スポーツは，記録・測定が増加型，準備・整理・補強運動と用具の管理・準備・後始末が凸型，話を聞く・質疑応答と待機・移動・集合・整列が減少型である。集団的スポーツは，話し合い・教え合い・補助と待機・移動・集合・整列が増加型，記録・測定が凸型，話を聞く・質疑応答が凹型，準備・整理・補強運動が減少型，用具の管理・準備・後始末が平行型である。これらは，継続的活動が中心である。

(4) 学習者の活動する単位にみられる活動パターンは，継続的活動の学級全体を対象とした用具の管理・準備・後始末の増加型，準備・整理・補強運動と話を聞く・質疑応答の減少型，待機・移動・集合・整列の凹型が共通している。グループを単位とした活動は，技能練習，待機・移動・集合・整理，用具の管理・準備・後始末の凸型である。個人を単位とした活動は，記録・測定の増加型，用具の管理・準備・後始末の減少型，話を聞く・質疑応答の平行型である。単発的活動では，学級全体を単位とした活動の話を聞く・質疑応答の減少型が共通している。その他の活動については，運動の特性によって活動パターンが異っているのが特徴である。

これらのことから，運動の特性ごとに，それぞれが，指導と学習の活動パターンは対応関係を示しているといえる。つまり，すべての活動パターンではないが，運動の特性に応じた授業の過程は，それぞれの特徴がありながらも，基本的には，図2の模式図のようになるといえる。

本研究では，スポーツ領域の個人的スポーツと集団的スポーツの比較による相違を検討したが，同じ個人的スポーツであっても，競争的スポーツや達成的スポーツあるいは克服的スポーツがあるので，今後の研究では，この点に視点を置いた分析・検討が必要である。

脚注及び引用参考文献

(1) 永田靖章，運動の特性による指導と学習の活動パターンに関する研究，東海保健体育科学，第2巻，PP.19—28，1980

(2) 竹之下休蔵，授業の進め方—その構造と過程 月刊体育，第1巻第4号，光文書院，P.10，1970

(3) 永田靖章，体育の学習指導過程と学習過程に関する研究，愛知教育大学教科教育センター研究報告，第2号，PP.175—187，1978

(4) 永田靖章，体育の指導学習過程に及ぼす指導学習形態の影響に関する研究，愛知教育大学教

科教育センター研究報告，第3号，PP.167—178，1979
(5) 永田靖章，体育授業における指導と学習の活動パターンの類型に関する研究，愛知教育大学教科教育センター研究報告，第5号，PP.303—311，1981
(6) 永田靖章，運動の特性による指導と学習の活動パターンに関する研究，東海保健体育科学，第2巻，PP.19—28，1980
(7) デジタル式行動記録分析装置は，特別注文にて授業分析のために竹井機器工業KKに作製させたものである。
(8) 宇土正彦，体育における学習指導の形態，日本体育学会編，保健・体育学講座V，体育学II，体育の科学社，PP.132—136，1961
(9) 継続的活動とは，指導者や学習者の活動を時間的にとらえ，1分間以上の同一の活動を継続している場合に用いた用語である。
(10) 単発的活動とは，指導者や学習者の活動を頻度でとらえ，1分間未満の短時間に同一の活動を行っている場合に用いた用語である。
(11) 永田靖章，体育の学習指導過程と学習過程に関する研究，愛知教育大学教科教育センター研究報告，第2号，P.180，1978
(12) 同　上　書